

# サステナビリティ基準委員会 (SSBJ) の概要

2022年11月2日

公益財団法人財務会計基準機構 理事長 林田 英治  
サステナビリティ基準委員会 委員長 川西 安喜

本資料の無断転載は禁止されています。

# FASFの概要

# 独立した民間団体

サステナビリティ基準委員会の母体である**財務会計基準機構（FASF）**は  
**民間10団体\***により設立された**公益財団法人**

## 1. 財団の名称：

公益財団法人 財務会計基準機構

英文呼称：Financial Accounting Standards Foundation（略称：FASF）

## 2. 設立日：

財団法人の設立：2001年7月26日

公益財団法人への移行：2009年11月2日

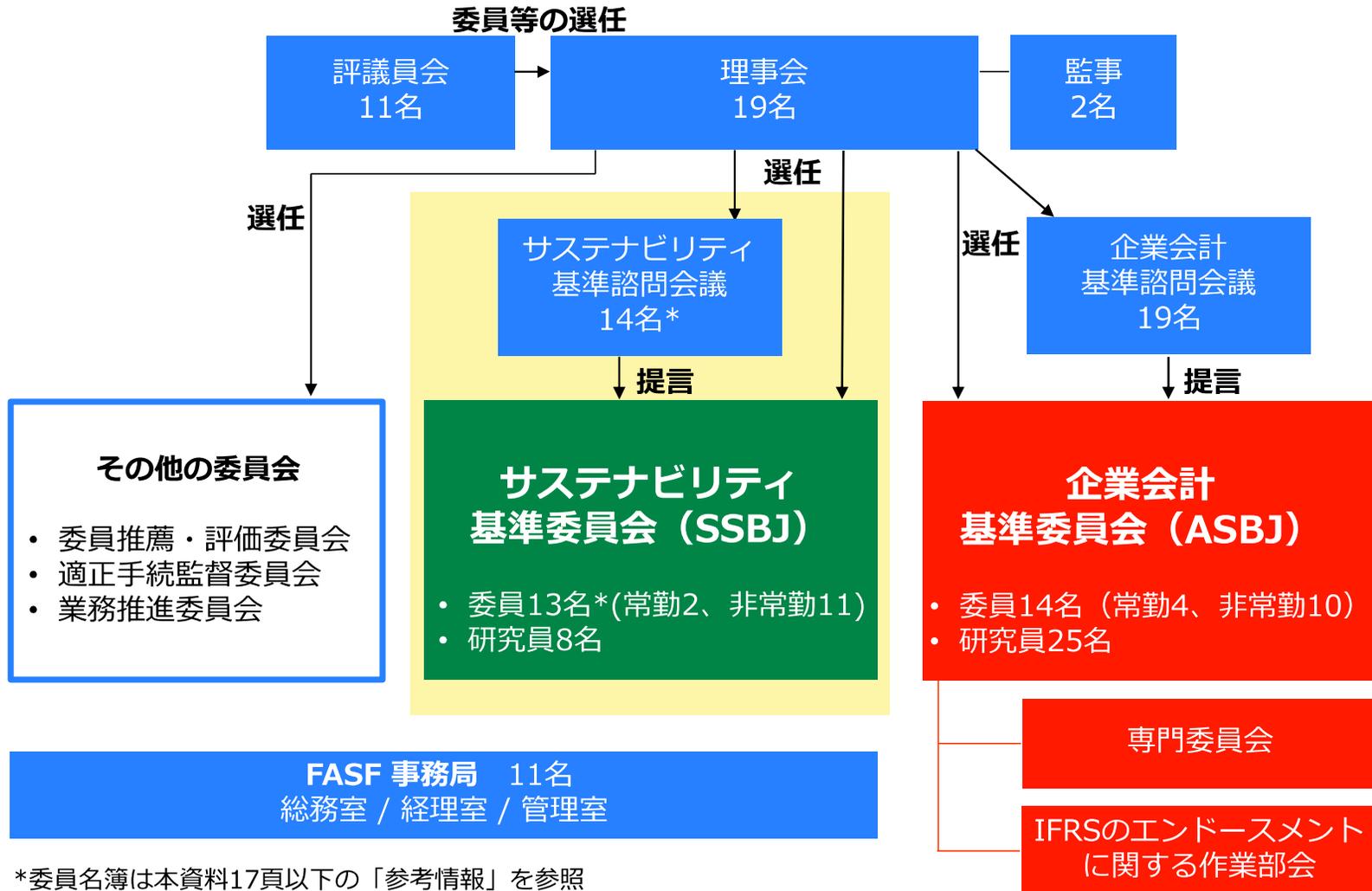
## 3. 目的：

- ❖ 一般に公正妥当と認められる会計基準及びサステナビリティ報告基準の調査研究及び開発
- ❖ 国際的な会計基準及びサステナビリティ報告基準の開発への貢献
- ❖ ディスクロージャー及び会計に関する諸制度の調査研究
- ❖ 上記事業の成果を踏まえた提言及び広報・研修活動

\*当時の経済団体連合会、日本公認会計士協会、全国証券取引所協議会、日本証券業協会、全国銀行協会、生命保険協会、日本損害保険協会、日本商工会議所、日本証券アナリスト協会、企業財務制度研究会

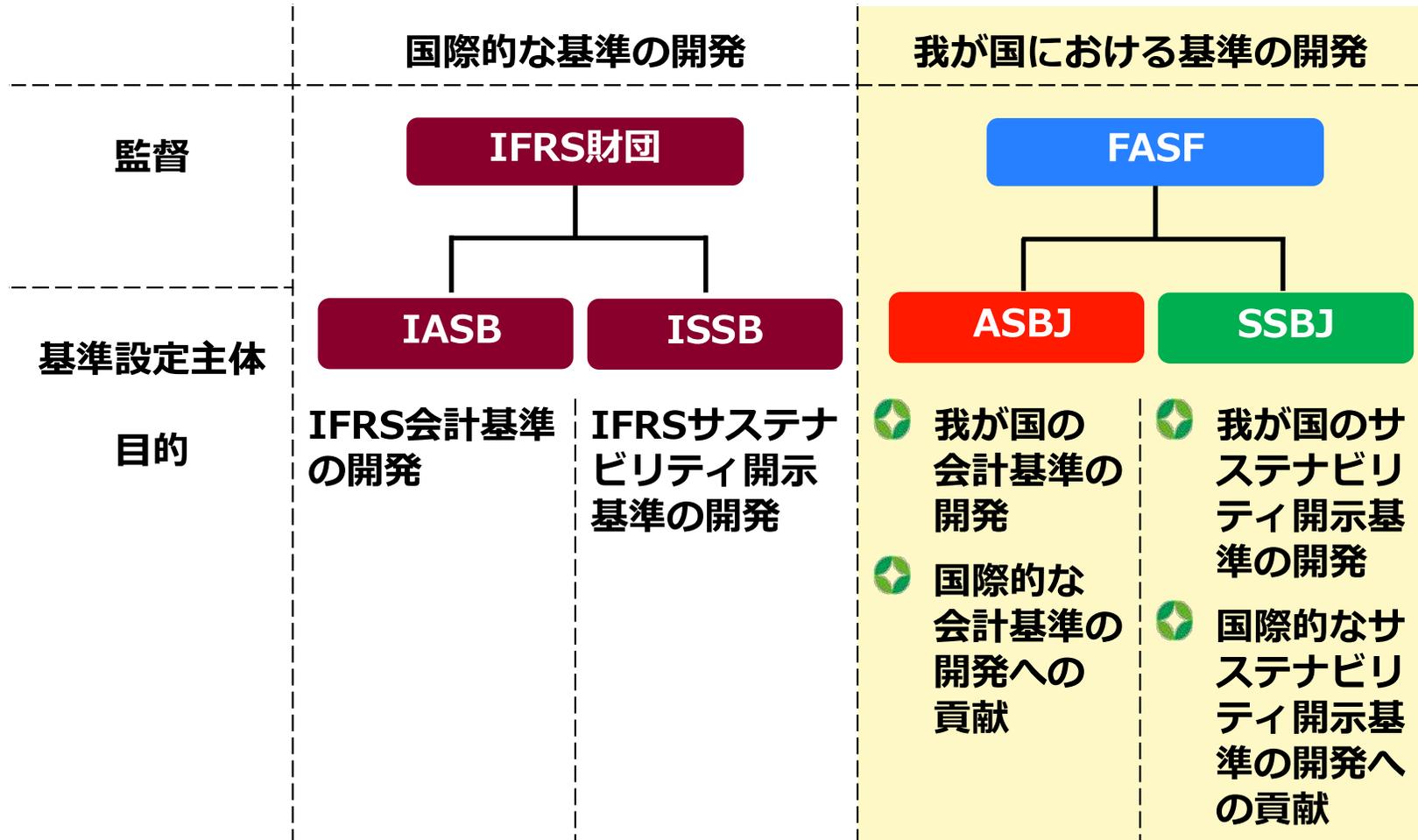
© 2022 Financial Accounting Standards Foundation, Sustainability Standards Board of Japan

# 組織構造



\*委員名簿は本資料17頁以下の「参考情報」を参照

# IFRS財団との対応関係



# 運営資金 – 多数の者からの継続的な資金提供

FASFは、主に会員からの会費により組織を運営

1. 基本財産： 10億円

2. 事業規模：

◆ 会費収益：15億円（2021年度実績）

◆ 経常費用：17億円（2022年度予算）

3. 会員の状況（2022年10月28日現在）：

◆ 法人会員

◆ 4,032法人 4,873口

（うち上場会社 3,686法人（加入率約95%） 監査法人等 83法人）

◆ 年会費：30万円／口

◆ 個人会員

◆ 257名

◆ 年会費：5万円／口

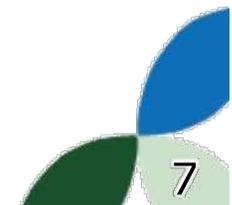
# IFRS財団への拠出

FASFは、我が国における**IFRS財団のカウンターパート**として、我が国からIFRS財団への**資金拠出の窓口**の役割を担っている

- 🌱 IFRS財団は、各国のGDPに基づき拠出比率を提案
- 🌱 FASFは、会費収益の**約1/5（約3億3千万円）**を拠出
  - ◆ IFRS財団への全般的な拠出
  - ◆ IFRS財団アジア・オセアニア（AO）オフィスへの拠出

サステナビリティ開示基準の開発に関連する活動のため、FASFの**法人会員の年会費及びIFRS財団への拠出額を、2023年度より変更の予定**

	2022年度まで
法人年会費	30万円／1口
<b>IFRS財団への拠出額</b>	
全般的な拠出	2億8,300万円
AOオフィスへの拠出	5,200万円



# SSBJの概要

## SSBJ設立の経緯（1/2）

- ① IFRS財団等を含む国際的なサステナビリティ開示基準に関する議論の状況、国内の利害関係者からの要望等を踏まえ、**2021年10月にFASFの定款を変更し、第3条（目的）及び第4条（事業）にサステナビリティ開示基準に関する事項を追加**
- ② 2021年12月のFASFの理事会において、**2022年7月1日付でサステナビリティ基準委員会（SSBJ）を設立することを決議**
  - ◆ 同日、国際的な動向に適時に対応するため、**SSBJ設立準備委員会**の設置を決議
- ③ **2022年1月にSSBJ設立準備委員会が発足、2月より審議を開始**
  - ◆ 2022年3月まで、IFRS財団の技術的準備ワーキング・グループのプロトタイプ（基準の試作品）に関する審議を実施
  - ◆ 2022年4月から6月まで、ISSB公開草案に関する審議を実施

## SSBJ設立の経緯（2/2）

- 2022年5月のFASFの理事会において、**SSBJ**の委員長及び委員、並びに、**サステナビリティ基準諮問会議**の議長及び委員を選任
- 2022年7月1日に**SSBJ**が発足
  - SSBJのガバナンスは、**FASFの定款**において、ASBJのガバナンスと同様に定め、厳格に運用
- 2022年7月にISSB公開草案に対するコメント・レターを提出

## 委員会の特徴

委員は、我が国の資本市場を代表する組織からの推薦により、**専門的能力、所属先のバランス**も考慮した上で候補者が選定され、**FASFの委員推薦・評価委員会\***が候補者を面接し、最終的に**理事会にて選任される**

	 SSBJ	 ASBJ
委員	委員13名*(うち常勤2名)/定員15名	委員14名 (うち常勤4名) /定員15名
作成者	5名 (うち金融機関所属3名)	3名
利用者	2名	4名
実務家	4名 (公認会計士)	5名 (公認会計士)
学識経験者	2名	2名
委員任期	3年 (3期限度、再任可)	3年 (3期限度、再任可)
定足数	原則5分の3以上の出席	原則5分の3以上の出席
議決要件	原則5分の3以上の多数	原則5分の3以上の多数

\*委員名簿は本資料17頁以下の「参考情報」を参照

© 2022 Financial Accounting Standards Foundation, Sustainability Standards Board of Japan

# 倫理規則

SSBJ委員の倫理規則では、委員が業務を遂行するにあたり、**誠実性及び公正性**を含む、以下の基本原則を遵守することが求められている。

## サステナビリティ基準委員会委員の倫理規則

第2条 委員は、業務の遂行にあたり、次の基本原則を遵守しなければならない。

### 一 誠実性

委員は、専門家としての良心に従い、誠実に業務を遂行しなければならない。

### 二 独立性

委員は、特定の業界並びに企業、団体及びその他の法人の利益に偏することなく、独立した立場で業務を遂行しなければならない。

### 三 公正性

委員は、業務の遂行にあたり、公正な立場を維持しなければならない。

### 四 専門性

委員は、専門的知識、技能及び経験を備え、かつ、その能力向上に努めなければならない。

### 五 品位の保持

委員は、委員としての社会的信頼又は品位を失墜するような行為をしてはならない。

### 六 守秘義務

委員は、業務を遂行する過程で知り得た業務上の情報については、公開されているものを除きこれを他に漏洩し、又は私用してはならない。

# 国内基準開発方針

SSBJは現在、**「サステナビリティ基準委員会の運営方針」**を策定中

◆ サステナビリティ開示基準の開発に関連する活動及び国際的なサステナビリティ開示基準の開発への貢献に関連する活動等に関する、現時点での運営に係る基本方針

◆ 基本的な考え方：

◆ **高品質な基準**

投資家の意思決定にとり有用な情報が開示されるようにするため、経済環境の変化に対し市場関係者のニーズを踏まえ、適時に基準開発の要否及び基準開発を行う場合のその時期を検討する

◆ **国際的に整合性のあるもの**

日本基準を、国際的な比較可能性を大きく損なわせないものとして開発し、これを対外的に示していく

## 参考：運営方針（案）

### SSBJでは、運営方針をとりまとめ、公表する予定 「高品質な基準」と「国際的な整合性」に関しては、以下の内容を検討中

#### 高品質な基準

- ◆ 高品質なサステナビリティ開示基準は、基本的には、それを用いて作成されたサステナビリティ関連財務情報が投資家の意思決定にとって有用であることを目的とする。サステナビリティ開示基準が高品質であるためには、経済環境の変化に対し、市場関係者のニーズを踏まえ、適時に基準開発の要否及び基準開発を行う場合のその時期を検討する必要がある。
- ◆ また、高品質なサステナビリティ開示基準は、作成者にとって過度の負担とならないこと等、基準開発のプロセスに参画する市場関係者のコンセンサスが得られるよう審議を行うことが必要である。さらに、それを用いて作成されたサステナビリティ関連財務情報が、今後国際的に求められる程度に保証を受けることが可能となるよう基準開発を行うこととする。
- ◆ 上記のようなサステナビリティ開示基準の開発は、デュー・プロセスを確保し、公正性、透明性のある形で行う必要があると考えられる。具体的には、FASFの理事会が定める「サステナビリティ開示基準の開発に係る適正手続に関する規則」を遵守して基準開発を行うこととなる。

#### 国際的に整合性のあるもの

- ◆ 比較可能性を高め、かつ、我が国のサステナビリティ開示基準の信認を確保するためには、日本基準を国際的に整合性のあるものとして開発し、これを対外的に示していくことが必要である。
- ◆ ISSBが市場関係者からの要望により国際的なサステナビリティ開示基準の開発を目的として設置されたことを踏まえると、基準開発にあたって、日本基準を包括的なグローバル・ベースラインとされるIFRSサステナビリティ開示基準の内容と整合性のあるものとするのが、我が国の市場関係者にとって有用である。
- ◆ ここで、ASBJが開発する会計基準が国際的に整合性のあるものであるかどうかを検討する際には、日本基準により作成された財務諸表が、国際的な比較可能性を大きく損なわせないものとするを基本としている。サステナビリティ関連財務情報が、企業の一般目的財務報告の一部として開示され、企業の財務諸表に含まれる情報を補足し、補完するものであることを踏まえると、当委員会がサステナビリティ開示基準の開発を行うにあっても、国際的に整合性のあるものかどうかを検討する際には、日本基準により作成されたサステナビリティ関連財務情報が、国際的な比較可能性を大きく損なわせないものとするを基本とする。

# 国際的な意見発信のアプローチ

## ◆ コメント・レターの提出

- ◆ **IFRS財団、ISSB又はIASBから公表された主要なサステナビリティ開示基準に関するデュー・プロセス文書(※)に対して、原則としてコメント・レターを提出**
- ◆ **上記以外の団体から公表されたデュー・プロセス文書に対して、必要と認められる場合には、コメント・レターを提出**  
※ディスカッション・ペーパー、公開草案、情報要請等、一般からコメントが募集されている文書

## ◆ 国際的な会議への参加

- ◆ **2022年5月よりSSBJ設立準備委員会がISSBのJurisdictional Working Group (JWG) のメンバーとして参加**
- ◆ **ISSBのSustainability Standards Advisory Forum (SSAF) のメンバーに応募**
- ◆ **他国の設定主体との連携についても検討中**

## これまでの活動の概要 ※SSBJ設立準備委員会の活動を含む

### ◆ ISSB公開草案の内容の周知

- ◆ ISSB公開草案の日本語訳の作成
- ◆ 当財団のホームページにおけるISSB公開草案の解説動画等の公開
- ◆ ISSB公開草案の内容を紹介するセミナーへの講師派遣

### ◆ ISSB公開草案に対する意見の集約及び発信、ISSBにおける議論への貢献

- ◆ 2022年2月から3月：プロトタイプに関する予備的見解、方向性の合意形成

- ◆ 2022年4月から7月：

- ◆ ISSB公開草案に対するコメント・レターの審議
- ◆ 国内関係者からの意見聴取(アウトリーチ)

→ **7月29日**にコメント・レターをISSBに提出

- ◆ 2022年8月から10月：

- ◆ ISSBからの意見聴取(アウトリーチ)、ISSBとの継続的な意見交換
- ◆ Jurisdictional Working Group (JWG) に参加

# 参考情報

# 委員推薦・評価委員会 委員

(敬称略、2022年11月2日現在)

委員長	齋藤 真哉	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 教授
委員	青 克美	(株) 東京証券取引所 常務執行役員
	井上 隆	一般社団法人日本経済団体連合会 専務理事
	許斐 潤	公益社団法人日本証券アナリスト協会 理事
	茂木 哲也	日本公認会計士協会 会長

# SSBJ 委員 (1/2)

(委員長)

(敬称略、2022年11月2日現在)

常勤	川西	安喜	企業会計基準委員会 委員長
----	----	----	---------------

(委員)

常勤	中條	恵美	企業会計基準委員会 委員
非常勤	井口	譲二	ニッセイアセットマネジメント株式会社 チーフ・コーポレート・ガバナンス・オフィサー 執行役員 統括部長
	沖	宏治	MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社 総合企画部部長 兼 サステナビリティ推進室長 三井住友海上火災保険株式会社 経営企画部部長 兼 サステナビリティ推進チーム
	勝部	安彦	東京電力ホールディングス株式会社 経営企画ユニット ESG 推進室長
	川那部	留理子	株式会社大和証券グループ本社 経営企画部 SDGs推進室 室長
	菊池	勝也	東京海上アセットマネジメント株式会社 理事 責任投資 部長 兼 オルタナティブ責任投資部長

## SSBJ 委員 (2/2)

(続き)

(敬称略、2022年11月2日現在)

非常勤	阪 智香	関西学院大学商学部 教授
	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
	藤本 貴子	有限責任監査法人トーマツ パートナー
	三宅 康秀	日本製鉄株式会社 財務部部長
	宮坂 充	株式会社三菱UFJ銀行 経営企画部 サステナビリティ企画室 室長
	森 洋一	日本公認会計士協会 テクニカルディレクター

# サステナビリティ基準諮問会議 委員 (1/2)

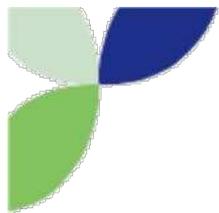
(敬称略、2022年11月2日現在)

議長	湯浅 一生	Ridgelinez(株) 取締役副社長
委員	植村 一之	パナソニックホールディングス(株)グループ決算責任者 上席主幹
	遠藤 英昭	PwC あらた有限責任監査法人 監査事業本部副本部長
	大波多 充	一般社団法人全国銀行協会 企画部次長 兼 サステナビリティ推進室室長
	菊池 教之	(株)東京証券取引所 上場部長
	来住 慎一	明治安田生命保険相互会社 サステナビリティ経営推進部長
	後藤 潤	(株)格付投資情報センター 格付本部 副本部長 兼 コーポレート4部長 チーフアナリスト
	関口 智和	有限責任 あずさ監査法人 開示高度化推進部長/サステナビリティ報告保証統轄
	土谷 敬	公益社団法人日本証券アナリスト協会 国際第2部長 兼 企業会計第2部長 兼 ESG調査第2部長

# サステナビリティ基準諮問会議 委員 (2/2)

(敬称略、2022年11月2日現在)

委員	鶴野 忠勝	キヤノン(株) サステナビリティ推進本部 環境統括センター 所長
	寺田 達彦	三菱商事(株) IR部長
	寺本 聡	東京海上日動火災保険(株) 理事経理部長
	堀内 優子	野村ホールディングス(株) 執行役員 グループファイナンス担当 (Deputy CFO) 兼 野村証券(株) 執行役員 ファイナンス 兼 ミドルオフィス担当
	山本 有	三井不動産(株) サステナビリティ推進部長



 **FASF**

 **SSBJ**

